

暮らしに寄り添う、市民が主役の広報誌

# 広報 やわたはま



9

2023

COVER - ゆめみかん -

## 感動を呼んだ、前田山旋風！

特集

# 激動の力士 前田山



—特集—

# 激動の力士 前田山

7月30日、八幡浜市民ミュージカル「激動の力士 前田山」が公演されました。3作目となる今回は、保内町喜木出身で、大相撲の第39代横綱として知られている「前田山 英五郎」が主役。彼の波乱万丈な生涯と周囲の人々とのエピソードを、市民キャスト38名と特別出演を交えた総勢83名が生き生きと演じました。

果たして、「前田山」とはどのような人物だったのか。そして、彼の生涯を描いた市民ミュージカルは、どのような想いで実現したのか。

今月は出演者らのインタビューも交えながら、故郷の偉人の生涯と、市民ミュージカルの魅力をご紹介します。

## 【前田山 英五郎 略歴】

大正3年に西宇和郡喜須来村にて出生。14歳で高砂部屋に入門後、骨髄炎による右腕切断の危機を乗り越え、戦後初の横綱となりました。戦中戦後の多難な時期の相撲界を支えた力士です。

引退後は弟子の育成に手腕を振ったほか、相撲界で初めて海外巡業を実行。外国人力士初の関取を育てるなど、「相撲界の国際部長」としても有名です。

昭和46年、57歳で逝去。



▲舞台中、横綱土俵入りのシーン  
(一公演、6人が交代で前田山を演じました。)

# 郷土の偉人を、市民キャストが演じる。



## ダブルキャストに初挑戦

この事業は、郷土の偉人の顕彰を通じて地域愛を育むことを目的としたもので、今回が3回目です。

今回のミュージカルの市民キャストには、初出演から過去作の経験者まで38名が参加しました。年齢も8歳から70代まで幅広く多彩なメンバーが揃い、過去2作品の市民ミュージカルを担当した制作陣とともに今年2月から稽古を開始。出演者たちは、日々の仕事や学校生活、習い事などを調整しながら、与えられた役の人生と一体となることに挑み、稽古を重ねていきました。今回のミュージカルでは、過去作の出演者たちから上がっていた「もっと出番がほしいかった」という要望に応え、八幡浜市民ミュージカル初のダブルキャストに挑戦。例えば、東方で主役の前田山を演じた出演者が、西



9



7



5



8



6

5\_消防士からホースを奪って大暴れ 6\_緊迫の手術 7\_横綱引退のきっかけとなった日米野球観戦 8\_相撲界初のアメリカ巡業 9\_ハワイでジェシー(右)をスカウト。ジェシーを外国人初の関取まで育てたことも前田山の大きな功績として語られています。



## 進取の気性、前田山

闘志あふれる取り口と強烈な張り手で人気を博した前田山は、自由奔放で暴れん坊な人物としても知られています。これが災いして、高砂部屋を破門されたこともあります。(後に復帰。)

また、野球やダンス、囲碁など多趣味なことでも有名。特に野球については、部屋の力士たちと草野球チームをつくるほどの愛好家でした。

このほか、海外巡業をきっかけに、怪我の時も使いやすい洋式便所を相撲部屋に取り入れたという逸話も。まさに、八幡浜市の「進取の気性」に富んだ人物だったと言えるのではないのでしょうか。



▲喜須来小学校前の前田山像

### 前田山の関連書籍をご紹介します！



どかんかい  
- 張り手一代 前田山英五郎 -  
今田 柔全 著 BAB ジャパン出版局  
「相撲協会国際部長」前田山英五郎の波乱万丈の記録を追う快作です。

市立図書館でも貸出し中！

## 観客の方にインタビュー



西方で来場  
上甲 妙さん  
(天神通)

話の流れが面白くて、笑いもあり、感情移入する部分もあり、とても良い舞台でした。また、舞台を観て、「八幡浜市にこんなにすごい人がいたんだ！」とびっくりしました。次回もあれば、ぜひ観てみたいです！

東方・西方とも来場  
大森 彰子さん  
裕季さん  
美季さん  
(八代)



同じ物語でも、演者によって表現の仕方が違って楽しかったです。ダブルキャストは大変だったと思いますが、皆さんの「良い舞台にしたい！」という団結力に感動しました。素敵な舞台をありがとうございました！



1\_前田山の代名詞「張り手旋風」。  
2\_小さい頃から腕っぶしが強かった前田山。3,4\_野球にダンス。前田山は相撲界随一の多趣味な人物として知られていました。



## 大観衆を前に、 素晴らしい演技を披露

本 番当日の2公演は、市内外から来場した観客でゆめみかんの大ホールはほぼ満員に。出演者たちは大観衆を前に堂々とした演技を披露しました。

方では前田山の先輩力士やアメリカの野球チームの監督として舞台上がるなど、出演者全員が縦横無尽に駆け回る舞台となりました。

また、特別出演として重要な役を熱演した大城市長・井上教育長に加え、前田山の母校である喜須来小学校の5・6年生有志43名も出演。練習を重ねてきた歌やダンスで会場を沸かせました。

今回のミュージカルを記録したDVDを、八西CATVと連携して制作中です。市民向けの貸し出しも予定していますので、しばらくお待ちください。(今後、市HP等でお知らせします。)

# 出演者たちの想い

約7か月の稽古を経て迎えた本番の舞台に、出演者たちはどんな想いで臨んだのでしょうか。ミュージカルに関わった人たちの声をご紹介します。



「前田山 英五郎」役 丸山 真利奈 さん

喜須来小学校出身の私は、前田山の銅像の周りを遊び回っていました。ゆかりはあったものの、その人物像や生き様、成し遂げたことなど、詳しいことは知りませんでした。今回、市民ミュージカルの公募を見て初めて挑戦を決めたのは、前田山という人をもっと知りたかったことも、理由の一つです。

ワークショップオーディションを経て始まった稽古は、とても密度が濃い時間でした。さらに、東方では前田山の生涯の一部を演じさせていただけることになり、恐れ多いと感じていました。そのような中でもなんとか無事に成し遂げられたのは、ひとえに支えてくださった方々のおかげです。

今回のミュージカルをきっかけに、暴れん坊の一面もあつつ、数多の縁の中で相撲界を切り開いてきた郷土の偉人の魅力を知ることができました。ありがとうございました！



脚本・演出 大杉 良 さん

市民ミュージカル3作目も脚本・演出をさせていただきました。戦後初の横綱というだけでなく、自由奔放な人物として知られている前田山。その分、いろいろな角度で思っている人がいることを意識しながら、彼の生涯を描きました。

今回の市民ミュージカルではダブルキャストに初挑戦したこともあり、おそろく日本一、曲数と出番の多い舞台に…。出演者たちはとても大変だったと思いますが、約7か月の稽古の積み重ねは大きく、プロの目から見ても出演者たちの基礎レベルが一段と上がりました。また、舞台に関わる全員の気持ちが一つになって、「舞台ならではの『新鮮さ』がある、101点の舞台」を公演でき、私の想像以上の大きな拍手をいただきました。

観客の皆さん、そして一緒に素晴らしい舞台をつくってくれた出演者・スタッフの皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。





サポートスタッフ 山本 雅人 さん

今回、主に子どもの指導係として前田山の舞台に関わりました。演者として出たことはありますが、スタッフとしては初めてです。

稽古期間の途中には子どもたちの練習への姿勢が崩れてきたこともありましたが、「せっかくやるなら一生懸命しようや。」と声をかけ、あえて様子を見守るようにしていました。その中でも、大人たちの集中力と緊張感を感じ取って、徐々にお互いの声かけや自主練習を始めた姿を見た時に、子どもたちの成長を感じました。

出演者・スタッフ全員の熱い気持ちで埋め尽くされていた本番の舞台は大成功。観客のお見送りで、子どもたちが流していた涙は、しんどさを乗り越えた充実感と感動の涙だったのだと思います。

みんなが一丸となって取り組んだ「激動の力士前田山」に関わって、とても素敵な時間を過ごさせてもらいました。



「萩森 金松(※)」役 道岡 春月 さん  
※前田山の本名

これまでに八幡浜児童合唱団のオペレッタや八幡浜ミュージカル劇団の公演に出演したことがあり、どちらも楽しかったので、今回の市民ミュージカルも興味があり参加しました。

7か月の稽古では楽しいこともしんどいこともありましたが、公演当日まで「観ている人に『楽しい』と思ってもらえるような舞台にしたい」と思って練習に励んできました。本番では、たくさんのお客さんが観てくれている中、主人公の「金松」役として舞台の真ん中で歌ったり踊ったりするのが一番楽しかったです。また、終わった後に観客の方をお見送りした時には、知らない人にも「よかったよ!」と言ってもらえて本当に嬉しかったです。

今回の市民ミュージカルに参加して、みんなで一つのものを作り上げて、それを発表することの楽しさをあらためて知りました。これからもお芝居に関わっていききたいです。





## 伝えたかった思い、 前田山旋風に乗せて。

### 脚

本を務めた大杉さんが、今回の舞台に込めたのは「人は一人では生きられない」というメッセージでした。

「市民ミュージカルの脚本を担当するうえで一番大切にしているのが、観た人に何を伝えるかという『メッセージ性』です。」

前田山は戦後初の横綱という偉業の一方で、素行不良な一面もあり、輝かしい初土俵の化粧まわしを作るのにも苦労したという逸話を持つ人物。それでも多くの人に支えられ、相撲界の国際化への貢献などで認められるようになりました。

そんな彼の生涯から、『人は一人では大事を成し遂げられない』『あなたのおかげで、私がいる』という想いを、前田山の代名詞である『張り手旋風』という風に乗せて届けたいという想いで脚本を書きました。」

大杉さんが伝えたかったその想いは、ともに舞台を作り上げる出演者・スタッフに伝わり、

# あなたがいて、私がいる。 前田山旋風に込めた「周囲への感謝」



一人一人が熱意を持ってメッセージを体現。観客席まで届いた想いは感動の拍手となって、会場に響き渡りました。

郷土の偉人の生涯を通して、今を生きる私たちにメッセージを届けられるのが、市民ミュージカルの効果であり、魅力の一つです。

前田山がいたから、

この舞台ができた。

あなたがいたから、

私はここまでこれた。

時を超えて出演者たちが起こした前田山の張り手旋風は、私たちに向けて「周囲への感謝」の大切さを届けてくれました。